

大腸がんと歯周病

横浜市立大学・肝胆膵消化器病学の研究グループは、大腸がん患者の患部組織と唾液から口腔常在菌の一種である *Fusobacterium nucleatum* (*F. nucleatum*) を分離、解析したところ、患者の4割以上でがん組織と唾液に共通する菌株が存在したことを医学雑誌「*Gut*」に報告しました。



F. nucleatum は健康人の多くが口腔内に保有する常在菌の一種であり、歯周病の悪化にも関与することが報告されており、口腔内と大腸がん組織における *F. nucleatum* の菌株が一致したことから、口腔内の *F. nucleatum* が大腸がん組織に移行、感染していることが示唆されました。

